ISSN 0388-5569
VOL. 4 NO. 2
(通巻11号)
1983.6

Library News

山口大学附属図書館報

目次

館長に就任して……木脇祐順……1
蔵書印のこと……岩城秀夫……2
附属図書館新営改修工事の概要……3
≪お知らせ≫
閲覧関係事務室の移転について……6
昭和58年度附属図書館関係各種委員会
委員名簿……6
人事異動……7
日　誌……7
昭和57年度図書館統計表……8

館長に就任して

木　脇　祐　順

図書館長に就任して2月たった。近年になって私の学んで来た獣医学史や家畜史について調べることが多くなり図書館の書庫の中で種々と漢籍から法律や経済関係の資料までさがしまわり立ち読みしたりメモをとったりして図書館の本のことについては，図書館の利用者としては少しはわかっていたつもりであったが，立ち場が変り本を管理しサービスする側にたってさてどうしたらよいかと考えこんでいる。

大学図書館は研究図書館的機能と学習図書館的機能をあわせもっていて，どちらも大切で一方をないがしろに出来ません。一般教養や基礎的な学生の学習用の図書も国際的水準を維持しさらに発展をめざすような研究者用の高度な専門図書も学術雑誌も収集して利用者に提供しなければならない。近年学術研究が急速に進展しその成果である学術情報の量はきわめて多い。その中から必要とする学術情報を迅速にかつ的確に入手するためには，電算機に大量の情報を入れ，それから検索して来るのが一番よいとされ，学術情報システムの確立がいそがれている。大学図書館もそれに伴い機械化せざるを得なくなり山口大学図書館も昭和57年4月より閲覧業務を電算機によって行っていますが，それ以外の業務がおくれている状態で促進するよう努力しています。すこしでも早くすべての図書館業務が電算化して図書，雑誌が早く利用者の手元に行けるようにと考えています。全国的には学術情報センターが出来ますがとりあえず本年度は東京大学に文献情報センターが設置されます。中国四国地区の国立大学図書館関係もおくれていましたが地区センターとして広島大学図書館が整備をめざすことに合意されました。現在でも山口大学の情報処理センターは九州大学を通じ東大等のデータバンクを利用出来るネットワークに入っています。早く文献検索が出来ても原文献が収録されている学術雑誌がすぐにみられなければ意味がないことになりますので，吉田地区の雑誌の集中管理がのぞましいことになります。予算の削減等もあり重複購入をさけながら少しでも多くの雑誌をそなえたいと希望していますので種々の機会に相談したいと考えております。医学部分館，工学部分館はすでに集中管理化されていますので宇部地区よりテレックス・ファクシミリを利用して，より迅速な文献入手法をとりたい。医学部分館，工学部分館は専門図書館としての性格もはっきりしており各々の学部も図書館運営に御尽力いただいていますが本館は教養部学生を主体にした学習用図書館と人文社会系と自然科学系の研究者のための研究図書館の性格をあわせもつ複雑な構成をもっている。その上中央図書館としては昭和45年に山口地区の各学部を統合して吉田地区に移転してきて各分館をまとめ，更に昭和49年から事務部課制が施行されてからやっと体裁をととのえはじめたものの十分な予算措置がとられたとは云えない状態にあるようにみられ，特に学生用図書はともかく指定図書の制度は無視せざるを得ず，参考図書の整備も思うように行かないのでなんと

か学内措置でも講じていただく様努力したいと目下他大学の事情等を勉強中です。自然科学系外国雑誌の購入費予算も年々削減されてきて苦しい状態ですが国の景気が恢復するまでなんとかもちこたえたいと希望しています。文化系の大型資料購入費の方はうまい具合に過去3回程配布をうけ四庫全書珍本，米国議会経済合同委員会報告書，ルネッサンス期英国百科叢書を購入出来たことは幸運だったと思います。今後も委員会等に相談して予算獲得に努力したいと思います。

5月から増築と改装工事がはじまり3カ月の長期にわたり休館せざるを得ず図書館としては利用者の皆様に申しわけないと思っていますがその間の不便は改修後おかえししなければと考えています。よろしく御理解と御支援を願う次第です。　（農学部教授・附属図書館長）

蔵書印のこと

岩城秀夫

善本とか稀覯本とかいうには程遠いにしても，少し佳い書物を手に入れると，気の利いた蔵書印の一つも押してみたいと思う。また古本屋の店先で，何気なく開いた書物の扉に，著名な先覚の印影など見つけた時など，咫尺の間にその人と対座しているような気がする。

大学や公共の図書館の蔵書印は，おおむね雅趣に乏しいが，個人のものになると，雅号に続いて「珍蔵」，あるいは「審定」など，篆書体も意匠に意を用いたのがあって，いかにも愛書家という雰囲気が感じられる。

山口大学附属図書館の蔵本にも，字句の洒落た印影を見ることがある。「禁秘御鈔階梯」には，毛利の重臣村田清風の蔵書印がみられるが，これは随分凝ったものである。

長門国三隅荘村田氏文庫章

集散任天然永為四海宝

前半もさることながら，後半の「集散は天然に任せ，永く四海の宝と為さん」というのは，書物の貴重さをいうとともに，またそれが流転の運命をもつこと，言い得て妙である。

このほか山口大学には，徳山藩旧蔵の漢籍を多く蔵する。世にいう棲息堂文庫であるが，それらには「徳藩蔵書」という印影がみられる。ただ，大小2種あって，小さい方が陰刻で印相も雅であるのに比して，大きい印は肉太の武骨な陽刻である。そして仔細に見ると，後者の場合は印影が二つ重っているのに気が付く。線の細い篆書体の「明倫館印」なる印影に重ねて，これを抹消するように，肉太の「徳藩蔵書」の印が押されているのである。

蔵書印を押す場合，位置に規定があるわけではないが，慣習めいたものがないではない。時には首葉の上半部を掩うかと思うほどの大きな印影を見ることもあるが，漢籍の場合，おおむねは首葉の第一行の下方に押してあるのが多い。これが人手に渡ると，新しい所蔵者はその上方に押す。従って蔵書家の間を転々とした書物などは，縦にいくつもの印影が並んでいて，流伝のあとを語ってくれる。

これに比べると，徳山藩の押し方は異常である。徳山藩はいうまでもなく毛利の支藩であり，明倫館は本藩である萩藩の学校であった。本藩の藩校の印影を掩いかくすように，「徳藩蔵書」の印が押されたのは，何故か。

これについては，徳山藩と萩藩との間に生じた一つの事件を知らねばならぬ。事の起りは萩本藩領と徳山藩領との境界にあった1本の松である。正徳5年（1715）本藩の農民がこれを伐って持帰ろうとし，見咎めた徳山藩士が殺傷に及んだことに端を発し，両藩がきびしく対立した。結果としては，幕府の裁定により，徳山藩は本藩に対する非礼のかどで改易，藩主元次は出羽国新庄藩にお預けとなった。この件については小川国治教授の「長州藩」（新編物語藩史第9巻所収）に詳しい。

元次は漢学を好んで伊藤東涯に師事し，多くの漢籍を収蔵したことで著名であるが，改易のあと，当然その蔵書は本藩に没収された。明倫館の印はその時に押されたものに相違ない。

その後，徳山では旧家臣を中心に，お家再興の嘆願が繰返され，享保4年（1719）に許可が下ったか

ら，書物は徳山藩に還付されたと考えられる。しかし，懐しみつつ書物を改めてゆく藩士の眼を射たのは，明倫館の印であった。驚愕と狼狽，そして憤怒のさまは想見できよう。

徳山藩では，明倫館の印を押しつぶし，塗りつぶすことを考えた。明倫館の文字が完全に隠れてしまう大きさで，「徳藩蔵書」の印を新たに作ったのではなかったか。明倫館印よりやや大きく，しかも肉太の字体であることが，それを思わせる。まぎれもなく徳山藩の蔵書であるぞ，と宣言したのである。明倫館の印影の上に，新しい印影を押していった藩士の息づかいが感じられる。

因みにいえば，徳山の毛利家は明治29年（1896）に善本を選んで宮内省に献上したが，なお貴重な書籍が残っており，昭和37年（1962）上村幸次山口大学名誉教授（当時文理学部教授）を中心に，私をふくめて数名の教官学生の手で，毛利家の倉庫を調査したことがある。万暦刊の「金瓶梅詞話」や「山東通志」「水陸路程」など，貴重な漢籍が見付かったのはこの時である。蔵書印の経緯はこの調査で明らかになった。それらの書物の大半は後日山口大学附属図書館の蔵に帰し，上村教授によって，「毛利元次公所蔵漢籍書目」（徳山市立図書館双書第12集）が編まれた。詳しくは同教授による解説を見られたい。

蔵書印にまつわる話を今一つ。これも本学附属図書館に蔵する漢籍にみられることである。「重刊鮑氏戦国策」その他数点には，「奇兵隊印」と「思永館」という二つの印が並んで押されている。奇兵隊とはいうまでもなく高杉晋作の率いる奇兵隊であり，思永館とは小倉藩の藩校である。何故この二つが並んでいるのか。

元治元年（1864）下関の砲台は，英米仏蘭の四国連合艦隊の攻撃をうけたが，小倉の藩士は山の上から高見の見物をきめこみ，砲台に弾丸が命中すると，歓声をあげて杯を傾けていたという。後日これを伝え聞いた長州藩士は怒り心頭に発し，慶応２年（1866）の役に小倉城を猛攻，これを落城させた。その時奇兵隊が戦利品として持帰ったものの中に，藩校の漢籍があったのである。両者の印が並べ押されているのは，こうした経緯による。

ただ，この場合は旧蔵者の印影を抹消しようとはしなかった。むしろ戦利品であることを，誇らかに示そうとしたのではなかったか。同じく遺恨といっても，徳山藩の場合とは，思いが異るというものである。

このこと，詳しくは故青木正児博士の「奇兵隊の読書慾」（琴棋書画，また青木正児全集第７巻，いずれも春秋社刊）を見られたい。青木博士は下関市の生れ，中国文学の泰斗とし知られ，学士院会員でもあった。京都大学を退かれたあと，昭和24年（1949）から８年間本学文理学部の教授であった。

（人文学部長・教授・前附属図書館長）

附属図書館新営・改修工事の概要

1. 平面計画

既設図書館の北側に位置し，建物の南，西の各壁面線は既設建物の壁面線に一致させる。

建物の高さは，地上５階建とする。

新営建物の１階，２階，３階は，既設建物のそれぞれ書庫１層，１階，２階と接続する。

１，５階は書庫，２，３階は閲覧室，４階は特殊資料室，貴重書庫及び特殊資料閲覧室とする。

2. サービスポイントの集中化

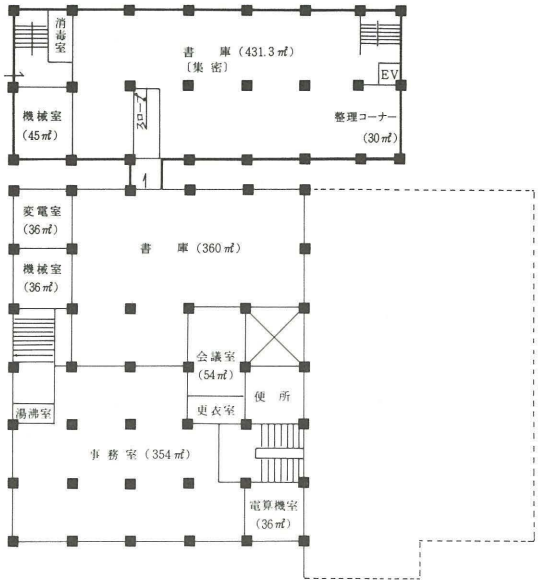
利用者の動線をできるだけ単純化するため，既設建物を改修し，玄関ホールとサービスカウンターを直結する。これによって窓口を少なくしメインカウンターで大部分の要求が満たせるようにして，利用者の便宜を図るとともに職員の分散をさけサービスの充実を図る。

3. 資料の収蔵性について

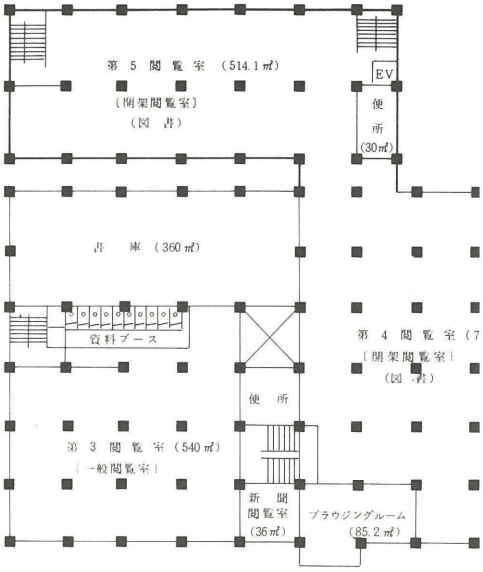
書庫を１階に設置するが建物の側面に地下の湿気を取り除くドライエリアを設ける。さらに書庫内防湿，通風換気装置を設け，除湿機を必要台数設置する予定である。 （以下５頁へ）

附属図書館新営及び改修工事平面図（太線は新営部分）

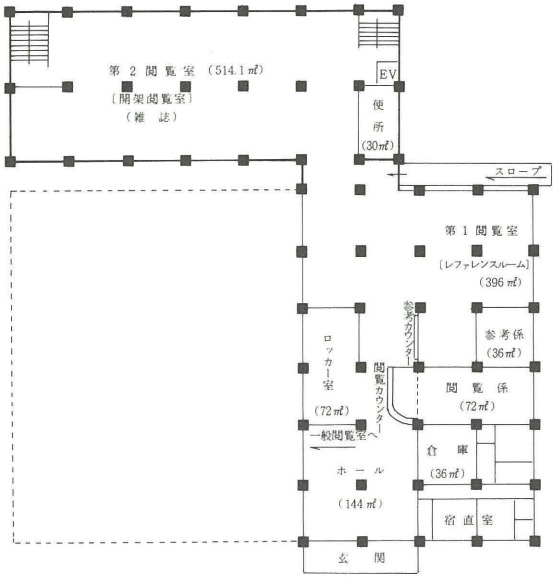
1　階

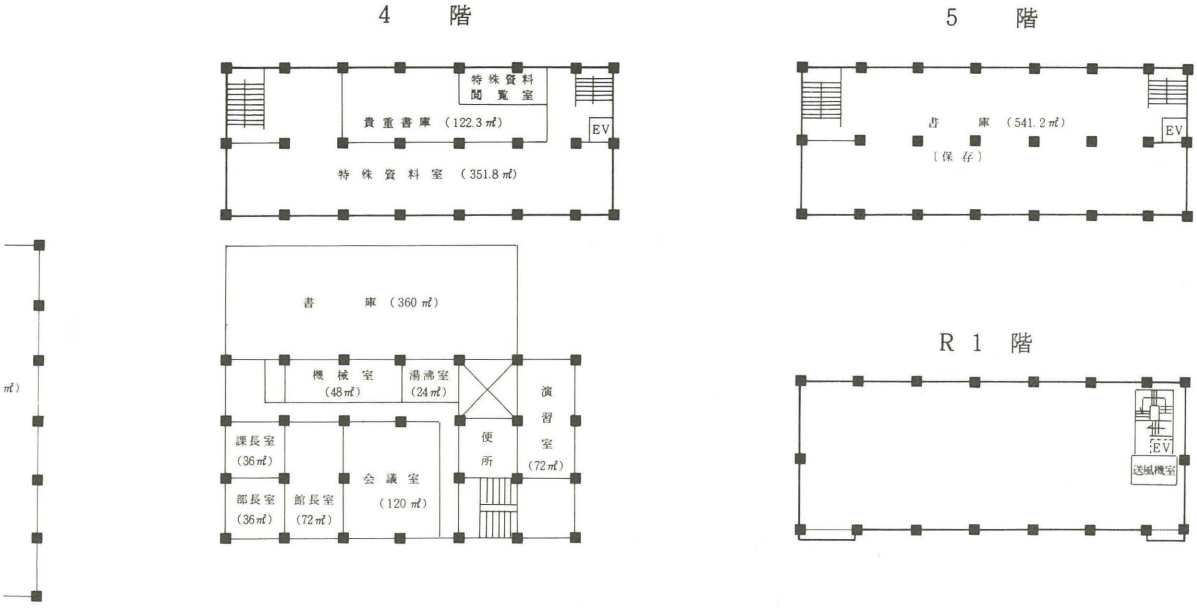


3　階



2　階





（3頁より）

書庫内の防火については，図書の性質上散水を避け，ハロンガス等による消火器を設置する。その他，消防法上必要な防火シャッター，防煙仕切及び通報装置等を設ける。1階には，電動による集密書架を設置する。そのため床荷重については，それに耐えられるものとする。増築により書庫の面積は現在の1,789㎡が約3,200㎡になり，また，収納可能冊数は約90万冊となる。

4. 居住性について

居住性を高めるため全館（書庫を除く）空調を行い，冬期の夜間開館専用の暖房設備としてファンヒーターを設置する。各室の照明スイッチ等の操作は省エネルギーのための分散方式を採用するとともに建物管理のため集中操作できるようにする。玄関には館内の案内板を設け，玄関ホールから閲覧カウンターへの入口には引戸式の自動ドアを設ける。

5. 身障者に対する配慮について

車椅子が容易に移動できるように段差は設けず，身障者専用の通用口にはスロープを設ける。また専用通用口とサービスカウンターとの間にインターホンを設置し，容易に入館できるよう配慮する。2階には身障者用トイレットを設ける。利用者用のエレベーターは車椅子のまま支障なく乗降できる広さのものとし，手摺，反射鏡，操作盤等を設ける。

6. 館内放送設備等

利用者及び職員に対する連絡のための放送設備，時報装置のほか緊急時の通報装置を設置する予定である。

7. ＡＶブース

語学テープ，音声テープ等を個人視聴できる機器を備えたブースを設置する予定である。

8. 雑誌閲覧室

第２閲覧室は雑誌閲覧室とし，学術雑誌等を約3,000種以上配架し，約90席の閲覧席を設ける予定である。

9. 開架閲覧室

第５閲覧室は開架閲覧室とし，第４閲覧室（現在の開架閲覧室）と接続し，総面積は約1,300㎡となり約300席の閲覧席を設ける予定である。これにより，既設１階の第１閲覧室（レファレンスルーム），第３閲覧室（一般閲覧室），新営４階の特殊資料閲覧室その他を含め，全体で700席に近い閲覧席になる予定である。

10. 工　　期

新営工事：昭和58年３月18日～11月30日

改修工事（室内）：昭和58年６月15日～８月31日

≪お知らせ≫

閲覧関係事務室の移転について

図書館改修工事のため６月６日(月)～８月31日(水)（予定）の間，閲覧係と参考係は小会議室（１階）を仮事務室として業務を行いますのでお知らせします。電話は内線788番です。

研究室への図書の貸出し，文献複写（学外への依頼を含む）の業務は平常どおりになるよう努めておりますが，図書の閲覧を中心に御迷惑をかけることを大変申訳なく存じます。

昭和58年度附属図書館関係各種委員会委員名簿

◇　運営委員会　　◎印は委員長

◎木脇　祐順（館長）　竹尾　和典（医学部分館長）　荻野　正二（工学部分館長）
関　　一夫（人文学部）　内山　俊彦（人文学部）　堂面　春雄（教育学部）
伊東　　斌（教育学部）　亀本　敏雄（経済学部）　吉村　　弘（経済学部）
久保田幸雄（理学部）　永井　克彦（理学部）　黄　　基雄（医学部）
清水　茂俊（工学部）　鈴木　義則（農学部）　牧田　登之（農学部）
渡辺　信生（教養部）　熊谷　寛次（教養部）　梶井　　正（附属病院）
緒方　幡典（医療技術短期大学部）　池谷　元伺（工業短期大学部）

◇　本館図書委員会

◎木脇　祐順（館長）　関　　一雄（人文学部）　内山　俊彦（人文学部）
堂面　春雄（教育学部）　佐藤　　登（教育学部）　亀本　敏雄（経済学部）
吉村　　弘（経済学部）　徳光　隆雄（理学部）　安倍　清彦（理学部）
鈴木　義則（農学部）　牧田　登之（農学部）　古賀　秀男（教養部）
西岡　道夫（教養部）　松川　　衛（事務部長）

◇　医学部分館図書委員会

◎竹尾　和典（１生化）　黄　　基雄（２解剖）　梶井　　正（小児科）
小田　裕胤（整形外科）　入澤　淑人（法医）　緒方　幡典（医短）

◇ 工学部分館図書委員会

◎荻野　正二（分館長）　加藤　泰生（機械）　水田　義明（資源）
土屋　　晉（工化）　松田　　博（土木）　松本　久男（電気）
酒井　義郎（生産）　大佐々邦久（化工）　宮田　直之（電子）
中川　浩二（建設）　嶋村　修二（共通）　藤本　幸雄（工短）
藤田　武男（工短）

人 事 異 動 （58.4～6）

〔採　用〕　赤野　　徹　閲覧課閲覧係
〔昇　任〕　山本　弥生　閲覧係長（閲覧係）
〔配置換〕　重松多喜造　（閲覧課長）　熊本大学附属図書館整理課長へ
　　永久　昭二　閲覧課長（香川医科大学図書課長から）
〔転　任〕　渡部　哲夫　医学部分館整理係（工業短期大学部から）
〔併　任〕　木脇　祐順　附属図書館長
　　荻野　正二　工学部分館長
〔併任解除〕　岩城　秀夫　（附属図書館長）
　　清水　茂俊　（工学部分館長）
〔退　職〕　岡本　和彦　（閲覧係長）

日　誌

2月14日（月）　電算化のための日本電気㈱との定例会
2月15日（火）　電算機（ＩＮＱ）講習会
3月10日（木）　電算化のための日本電気㈱との定例会
3月18日（金）　図書館職員研修会：学術情報システムとこれからの大学図書館（東大・情報図書館学研究センター助教授井上如）
3月24日（木）　工学部分館図書委員会
4月12日（火）　新入生に対する附属図書館オリエンテーション
4月14日（木）　電算化のための日本電気㈱との定例会
4月15日（金）　附属図書館新営工事起工式
4月28日（木）　工学部分館図書委員会
5月10日（火）～11日（水）　第31回中国四国地区大学図書館協議会総会（於高松）
5月12日（木）　山口県立山口図書館との連絡協議会（於県立図書館）
5月16日（月）　臨時本館図書委員会
5月17日（火）　昭和58年度全国図書館大会実行委員会（於県立図書館）
5月24日（火）　昭和58年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京医科歯科大学）
5月26日（木）　第40回附属図書館運営委員会
5月26日（木）～27日（金）　第19回日本医学図書館協会中国四国部会（於徳島大学附属図書館蔵本分館）
6月6日（月）～9月7日（木）　本館・改修工事のため休館

昭和57年度図書館統計表

Ⅰ　蔵　書　数（昭和58年3月31日現在）

区　　分	図　書　（冊数）			雑　誌　（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本　　館	572, 689	208, 041	780, 730	7, 029	2, 718	9, 747
医学部分館	57, 694	49, 404	107, 098	1, 112	1, 012	2, 124
工学部分館	59, 273	30, 511	89, 784	1, 082	591	1, 673
計	689, 656	287, 956	977, 612	9, 223	4, 321	13, 544

Ⅱ　年間受入数

区　　分	図　書　（冊数）			雑　誌　（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	3, 355	2, 037	5, 392	154	129	283
教育学部	4, 494	1, 157	5, 651	375	278	653
経済学部	5, 435	2, 979	8, 414	852	568	1, 420
理学部	551	935	1, 486	53	202	255
農学部	341	453	794	78	129	207
教養部	2, 385	2, 298	4, 683	145	329	474
学生相談所					3	3
保健センター	76	9	85	4	3	7
埋蔵文化財資料館	21		21	6		6
本　　館	4, 527	1, 767	6, 294	3, 348	618	3, 966
小　　計	21, 185	11, 635	32, 820	5, 015	2, 259	7, 274
医学部分館	2, 850	2, 701	5, 551	754	708	1, 462
工学部分館	2, 607	1, 627	4, 234	735	508	1, 243
合　　計	26, 642	15, 963	42, 605	6, 504	3, 475	9, 979

Ⅲ　利用統計

区　分	開館日数		入館者数			館外貸出者数			館外貸出冊数		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本　館	266	192	173,785	28,293	202,078	21,158	6,017	27,175	37,357	10,002	47,357
	1日平均		653	147	—	80	31	—	140	52	—
医学部分館	295	253	21,851	*10,900	32,751	12,109	6,637	18,746	25,264	12,903	38,167
	1日平均		74	43	—	71	26	—	85	51	—
工学部分館	278	198	26,156	* 7,074	33,230	6,947	2,429	9,376	13,530	3,871	17,401
	1日平均		94	36	—	24	12	—	49	20	—

(注)　*印は時間内に入館していた者を含む

Ⅳ　文献複写（件数）

区　　分		学内者			学外者	他研究機関			合　計
		私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	
電子式複写	本　館	2, 221	684	2, 905	27	524	874	1, 398	4, 330
	医学部分館	5, 848	4, 008	9, 856	720	1, 227	1, 251	2, 478	13, 054
	工学部分館	224	16, 199	16, 423	41	23	374	397	16, 861
	合　計	8, 293	20, 891	29, 184	788	1, 774	2, 499	4, 273	34, 245
印画引伸	本　館	0	14	14	0	0	0	0	14

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田1677－1　電話（0839）22－6111（内線788）